

## 地域情報化による地方活性化 地方と都心部におけるコラボレーションの重要性

[2015・FM] 21221042、坂井尚哉

### 1. 研究の背景と意義

インターネットの普及により、場所や時間に捉われない情報交換が可能となり地方における情報発信も容易と化した。しかし、情報の発信場所には他の情報が集まり、情報が集まる場所には人が集まるという法則が存在するにも関わらず、地方過疎化が著しいのが現状である。一方で、地方において地域が抱える課題を、ITを用い地域の魅力やコミュニティを情報化することにより解決する、地域情報化という地方活性化を目的とした取組を図る地域が存在している。これらの地域は、事例から地方における発信力の弱さ等のマイナスな部分を発信力等の強い都心部との繋がりを構築することで補っていると考えられたため、地方と都心部間における相互の繋がりを持ち情報の有効活用に繋げるという意味での地域情報化のコラボレーションを図ることが地域情報化により地方活性化を図る一つの策であると考え、本研究を進めるに至った。

本論文では地域情報化にあたり地方と都心部における情報活用の双方の協力・コラボレーションが地域情報化の成功に繋げることができるのかを明らかにすること、と同時に地方における情報の効果的な活用方法を明らかにすることで、地方活性化を図る一つの指針を記すことを意義とする。

### 2. 研究目的・方法

本研究の目的は第1に、地方と都心部における情報活用のコラボレーションにより地方活性化に繋げることができるかを明らかにすること。第2に、地域情報化により地方活性化に繋げる必要資源を明らかにし、地方における有効な情報の活用方法を示すことである。

研究方法は、文献による先行研究調査・事例調査、インターネットによる自治体運営サイト事例調査である。

### 3. 研究結果・考察

地域情報化における先行研究・事例から、地方と都心部におけるコラボレーションの定義として①都市部において希少な資源である。②地方において豊富に資源が存在する。③ネットや人を介して地方と都心部における人の繋がりが構築されている。④都市部のお客様に対しリピーターを増やしている。⑤都心部において販売先を確立している、の5つの項目を設定し地域活性化における所得の増加など経済的効果を目的とした地域経済活性化、交流の増加な

どを目的とした地域交流活性化の2種類の事例に対してコラボレーションの重要性について検証していった。

研究結果として①都心部において希少な資源である②地方においては豊富に資源が存在する、については地域経済・交流活性化共に共通して必要な要素であると分かった。

③ネットや人を介して地方と都心部における人の繋がりが構築されている、については成功事例、失敗事例の比較から地域経済・交流活性化共に共通してあまり重要な要素ではないと分かった。

④都市部のお客様に対してリピーターを増やしている。⑤都心部において販売先を確立している、については地域経済活性化においては非常に重要な要素であることが分かった。その反面、地域交流活性化を図る上では事例研究から都心部を有効的に活用するというよりも限られた地域において独自にいかにか密着して交流を増やせるかが重要であるとわかり、④⑤については重要な要素ではないことが明らかになった。

### 4. 結論

地域経済活性化を目的とする地域活性化を図るためには地方と都心部における情報活用のコラボレーションが重要であると分かった。利益を第一に優先しているため消費の多い都心部への販売経路の確立、また都心部との需要と供給の一致が重要であると言えることができる。また、利用する地方の資源として成功事例からも地域における特有の魅力が資源にすることが重要であると考えられる。

地域交流活性化を目的とする地域活性化を図るためには地方と都心部におけるコラボレーションの重要性は低いことが分かった。地域交流活性化は利益を最優先するのではなく限られた地域において独自でコミュニケーションの輪を広げることが重要であり、住民の活気付けを図ることが目的であると住民が理解しなければいけない。

地域経済活性化・地域交流活性化共通して重要であるのは地方に存在する魅力、と同時に働きかける住民のITに対する捉え方である。ITを資源の主要なものとして捉えるのではなく、地方に存在する魅力的な資源を第一に考え、その魅力を発信すること、交流を増やすことを重要視し、ITはその手助けとして捉えていくことが重要である。また、町に対して働きかける町を改善したいという熱い思いをもった住民の存在が重要である。